



■ 人権学習「風船飛ばし」

今年の初夏、桂川町人権擁護委員（代表 瓜生 郁義 氏）による「人権の花運動」が、桂川東小学校3・4年生を対象に行われました。その時に植えたひまわりの種は、猛暑に負けずに大輪の花を咲かせ、児童たちに新しい種を残してくれました。

児童たちの大切な、思いが込められたひまわりの種を風船につけてとばす「風船飛ばし」の催しが、11月4日(火)に桂川東小学校で行われました。

ヘリウムガスの入った風船は、ひもを手放すとすぐに飛んでいくため、児童はその小さな手に大事そうに握りしめていました。

しかし突然、ある児童の風船が一つ、空に舞い上がってしまいました。

それを見た周りの友達は「あーあ」とか、「飛んじゃった」などと口々に言いました。風船を手放してしまった児童は、さみしそうな表情でじっと固まっていました。

すると、その様子を見た担任の先生が開口一番、「みなさん、私たちは今、人権の勉強をしていますね。飛ばないように一生懸命握っていたお友達の風船が飛んで行ってしまったね。そんなお友達に、みんなはなんて声をかけたらいいのかな？考えてみましょう！」

それを聞いた児童たちは「はっ」としたように一瞬静かになり、次の瞬間には

「まだ、風船あるから大丈夫だよ」といった優しい言葉が次々に飛び出しました。すると、風船を手放してしまった児童は、ホッとした気持ちになったのでしょうか、一瞬にしてやわらかい表情になりました。

その話の後、先生は「人権学習は頭でわかっているけど、いざとなると相手の気持ちを考えない言葉がでてしまうんです。人権の花の風船飛ばしで、いい人権の学習ができました」と笑顔で、私たち人権センター職員に話してくれました。

やさしさに満ちた人権学習の場に参加できて、人権センターの職員だけでなくまわりにいた人たちも、とても幸せな気持ちになりました。



▲飛び立つ風船に喜ぶ児童たち



▲左から伊藤先生、瓜生人権擁護委員、永岡先生



▲人権擁護委員のみなさん、ありがとうございました。